

# 2013年度 センター試験 生物 (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：5 題	解答数：33 問
難易度の変化（対昨年）	難化      やや難化	変化なし      やや易化      易化
問題の分量（対昨年）	増加	変化なし      減少
出題分野の変化	あり	なし
出題形式の変化	あり	なし
新傾向の問題	あり	なし
<p>総評                  問題の難易度に大きな変化はない。しかし、問題構成と問題文の量に一部変化があった。第2問と第3問であるが、昨年度はA～Cに分かれていたのに対して、本年度はA・Bという構成になっており、しかも問題文の量も減少した。このため、時間内に解答することは容易であったろう。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	A...細胞の構造 B...植物ホルモン	20 点	A の問 2 は、有性生殖・無性生殖について理解しているだけでなく、それぞれを行う生物が多細胞生物かどうかを知っていないとわからない。 B の問 5 は、分裂組織の名称や部位を知っているだけでなく、それぞれから形成される組織まで理解していないとわからない。
第2問	A...生殖 B...発生	20 点	A の問 2 は難しめであったが、図 1 中央の細胞が減数第一分裂後期であることに気づけば解答できたはずである。 B の図 2・3 のグラフは目盛りの 10 分の 1 までを正確に読む必要があった。
第3問	A...遺伝子の本体 B...二遺伝子雑種・致死遺伝子	20 点	A ではファージの増殖について、正確な知識がないと考察だけで解くのは難しい。 B はふ化したうちの何%なのか、生存したうちの何%なのかを読み取る必要があった。
第4問	A...腎臓 B...自律神経とホルモン	20 点	A では腎臓の構造だけではなく、血管の構造も理解しておく必要があった。 B は基礎知識で解ける問題であった。
第5問	A...光合成 B...植物ホルモン・光周性	20 点	A・B 共に教科書などによく見られる平易なパターンの問題であった。